右鷄鳴四方拜之間、明星爛々、天氣快晴、春者年之始也、望氣之者稱二今歳豐衍之由一云々、不レ如二酌二白散之風一、樂二青陽之候一、參内之次可レ謁二玉顔一、諸事不レ能二一二一、謹言、

正月一日　　内匠頭

圖書頭殿

〔澤巽阿彌覺書〕空齋樣より福山に被二仰出一、祖父澤巽阿に御尋之時申上之記、〇中略

正月〇中略七日〇中略一細川殿御見參候て、御太刀を被レ參候、一細川殿則御禮に御出仕、是又御小素袍也、私に云、〇中略御判始御吉書、貞孝樣御自筆御調進を見申候、御内書御料紙引合、一紙は上卷也、〇中略新年嘉慶雖二事舊候一、不レ可レ有二際限一候、祝義期二面候一、猶貞孝可レ申候也、

正月七日　　御判

細川右京大夫どのへ

むかしは不レ存、見不レ申候、是は見申候間如レ此、

〔禮容筆粹 六〕年始之書狀之事　年始の狀は、唯發端より新稔之慶賀不レ可レ有二休期一御座候と書べし、尤下輩へならば御座をはぶくべき也、新春之御慶、改年之吉慶などゝ書べし、正月の末にもなり候はゞ、雖二事舊候一猶更不レ可レ有二休期一御座候と書べし、留は前にも云ごとく、猶期二永日一候と留る也、永日之時と書事、至て文盲也、

〔四民往來 一〕家老江遣年始文章家老職は我ためには最上の貴人ゆゑ、行文字に書べし、凡貴人江遣年始狀の發端に、改春新曆新春年甫などいふ字書べからず、慮外也、改年と書べし、

改年之御吉兆、不レ可レ有二盡期一御座二奉レ存候一、御吉慶とは書べし、御慶とは書べからず、大に慮外になる事也、上々樣倍御機嫌能被レ遊二御躋歲一、元三之御規式、御嘉例之通、於二御廳一御溜二被レ遂行一、引續御馬乘初、御弓鳥銃御高覽、年序之百祥、御作法之巨細、御舊規通無二漏目一相濟可レ申旨、恐悦御同意奉レ存候、於二御當地一御屋館御靜謐、堂上御付屆